

作成日		発行
2024. 02. 01 No.344		(株)秋山製作所 企画・デザイン室

アコヤ真珠

日本が世界に誇れるアコヤ真珠、上品で優しい輝きを放つ宝石は、冠婚葬祭などのフォーマルシーンはもちろん、日々のコーディネートを彩るジュエリーとしても最適です。そんなアコヤ真珠の日本での創世期、イノベーションについてお話いたします。

三重県鳥羽に生まれた御木本幸吉は、海女が採取していた天然真珠に興味を持ち、人工的に養殖できないかと考えました。志摩の英虞湾で 1888 年頃から真珠を育むアコヤ貝の増殖が始まり、試行錯誤の末 1893 年に鳥羽の相島で数個の殻付真珠の生産に成功しました。その時点では貝殻の内側に貼りついた珠を採取するため半円形でしたが、その後御木本は孫娘らと協力し、1905 年に世界初の完全な球形の養殖真珠に成功し、真珠養殖の基本的な技術が確立され生産が本格化しました。日本の真珠産業は養殖技術によって業績を伸ばし、世界市場でも頭角を現してきます。量と価格面で太刀打ちできないと察した欧米の国々は、日本の養殖真珠は人工による偽造品だと訴えて市場から締め出そうとします。しかし、天然のものと差異が無いことが分かると論争は終結します。1924 年に終結したパリ真珠裁判です。それを機に日本の養殖真珠は更に世界に広がり、御木本は世界から真珠王と呼ばれるまでの存在になっていきます。

今年も入学卒業シーズンに向けた商戦が始まりますが、この時期のフォーマルファッションに合うものといえばアコヤ真珠です。当社は長年真珠のブローチを生産販売していますが、このシーズンでの需要がピークになります。そこで、アコヤ真珠用 SV ブローチで近年の人気商品をご紹介します。入卒商戦に是非お役にたてればと思います。(M・U)



B5242



B5696



B4267



B2934

がらがら



節分の日に甲府で大神宮節分祭という大きなお祭りが開かれます。

このお祭りは、甲府盆地に春の訪れを告げるお祭りとして 300 年以上続く伝統行事であり、甲府三大祭りのひとつにも数えられています。そのお祭りの時にしか手に入らない名物お菓子「がらがら」をご紹介します。

がらがらは、小麦粉や水あめなどを混ぜた生地で作られ、大きさは一辺 20センチほどの三角形、その中にお菓子やおもちゃが入った小袋がはいっています。振ると中に入っている鈴が鳴るところから名前がついたそうです。鈴を入れるのは「鬼除け」になるからとも言われており、2月の火災の多い時期に「火の用心」になるようにとの願いも込められています。

おもちゃは男の子用と女の子用があり、リボンの色で見分けることができます。手作りで作っているため 1日に作れる数はごく僅か、そのため店頭には並ぶ数も多くない為節分の日には売り切れてしまうこともあるそうです。チャンスがあれば是非食べてみてください (N・S)



カイロ

まだまだ寒い日が続く、外へ出ると手先が冷えて辛いということもしばしばです。そんな時に頼りになる防寒グッズが「カイロ」です。一般的にカイロというと、使い捨ての白い袋のシンプルなタイプをイメージされる方が多いかもしれませんが、実はアロマ付きのものや繰り返し使えるものなど、さまざまなカイロがあります。

アロマが香るカイロは持っているだけでリラックスでき、リッチな気分になります。使い捨てカイロに使われている鉄粉の匂いが苦手という方にもおすすめです。使用後は捨てずに芳香剤としても使うことができます。ハーブやフルーツといった、お気に入りの香りと一緒にお出かけしてみたいはいかがでしょうか。

ジェルタイプのカイロは、じんわりと満足感のある温かさのカイロです。持続時間は短めなため、ちょっとしたお出かけ時やお部屋内での気分転換におすすめです。

他にもさまざまな種類のカイロがあるため、使用シーンにあわせて使い分けて厳しい寒さを乗りきりたいですね。(N・S)